

ヤコブ ⑤ 息子たちの暴走

□ヤコブの信仰の手本

1. 祖父アブラハム、父イサクと同様、寄留者の立場を甘んじて受けて、忍耐し続けた。ヤコブは、ノアやヨブと同じように、「全き人」と評された。
 - 人間の「全き者」とは、全く罪を犯さない人という意味ではない。その人の心が神の方をきちんと向いているかどうか、である。
2. 長子の権利を軽蔑した兄エサウとは対照的に、ヤコブは、アブラハム契約の約束を受け継ぐという霊的富の価値を認め、それを真剣に求めた。
3. 父イサクが兄エサウの方を愛し、エサウに長子としての祝福を与えようとしたとき、母リベカは夫イサクをだましてでも、弟ヤコブに祝福を受けさせようとした。ヤコブは母の計画に乗って実行してしまった。イサクはこの事件を受けて、神のみこころに逆らっていた自分の罪に気づき、自ら進んで、あらためて、ヤコブを祝福し、嫁をリベカの実家から迎えるよう命じて、ヤコブを送り出した。ヤコブはこのあと、生涯をかけて、父をだました罪の刈り取りをすることになり（箴言 22：8、ガラ 6：7）、わざわざに耐え続けた。
 - (1) 母リベカの実家の当主ラバンから、だまされた。
 - ① ラバンの2人の娘のうち、妹のラケルを嫁に求め、そのために7年間、ラバンのもとで働いた。ラバンはヤコブをだまして姉のレアを与え、妹のラケルをも妻にしたいなら、さらに7年間の勤労を要求した。
 - ② 14年の勤労期間が明けると、報酬を伴う契約に移行した。しかし、ラバンはヤコブの取り分がなくなるように条件を変えた。この期間は6年。
 - (2) ヤコブは、12人の息子を得たが、息子たちから、だまされた。
 - ① 次男シメオンと三男レビによるシェケム報復事件（創世記 34章）
 - ② 長子ルベンの不祥事（創 35：22）
 - ③ 11番目の最愛の息子ヨセフ 17歳を他の兄弟たちが妬み、奴隷に売り飛ばした事件。ヤコブには、「ヨセフは野獣に殺されたらしい」と報告され、ヤコブはヨセフが死んだものと思い込んだ。ヤコブ 107歳。
4. ヨセフはエジプトの高官の家で奴隷として働いたが、後にエジプトの王に次ぐ地位に就いた。ヤコブと彼の家族は、飢饉に見舞われ、ヨセフを頼ってエジプトに避難した。エジプトに到着したとき、ヤコブは130歳、次のようにエジプトの王ファラオに語った。「私がたどってきた年月は130年です。私が生きてきた年月はわずかで、**いろいろなわざわいがあり**、私の先祖がたどった日々、生きた年月には及びません。」その後、ヤコブはエジプトで17年間過ごし、147歳で死んだ。「信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの子どもたちをひとりひとり祝福し、また自分の杖のかしらに寄りかかって礼拝した」（ヘブル 11：21）

□本日の内容

カナンの地に帰り、兄エサウとの再会を無事に果たしたが、その後、10年の間に、ヤコブの一家には次々とわざわいが起きた。

第一に、シェケムの町で次男シメオンと三男レビが起こした報復事件。その直後には、12番目の息子ベニヤミンが生まれたが、難産のため妻ラケルが死んだ。

第二に、長子ルベンの不祥事。

第三に、最愛の息子ヨセフ17歳が兄たちによって奴隷に売り飛ばされた事件（帰って来てから10年後）。このとき、ヤコブは息子たちからだまされて、ヨセフは野獣によって殺されたものと思っていた。

本日は第一と第二の事件を扱う。一見すると、ヤコブは息子たちの暴走を止められない、弱い父親のように見えるが、果たしてそうであったのか？

1. シェケム報復事件（創世記34章）

(1) 1～5節 ヤコブの娘ディナが辱しめられた

- ① その土地の族長はハモル、その息子はシェケム
- ② 息子シェケムが、ディナを捕らえ、これと寝て辱しめた。
- ③ 息子シェケムは、父ハモルに、ディナを自分の妻としてくれるよう頼んだ。
- ④ 一方、ヤコブには、ディナが捕らえられて辱しめられたとの知らせが届いたが、息子たちが家畜を連れて野に出ていて不在だったので、ヤコブは黙っていた。

(2) 6～17節 交渉

- ① ハモルとシェケムは、ヤコブのところに来てディナを嫁にくれと要求した。ディナはシェケムの家に監禁されたまま。
- ② 7節 ヤコブの息子たちは野から帰って来て、このことを聞いた。息子たちは心を痛み、激しく怒った。シェケムがヤコブの娘と寝て、イスラエルの中で恥辱となることを行ったからである。このようなことは、してはならないことである。
- ③ ハモルの提案は、遊牧民に対する処遇としては破格のものであった。一つ、「互いに姻戚関係を結ぼう」、二つ、「シェケムの町の市民権を与える」であった。息子シェケムも、「どんなに高い花嫁料や贈り物であっても、求めてください」と申し出た。
- ④ ヤコブの息子たちは報復の意図を隠して、「その土地の男たちがみな、割礼を受けて、私たちと同じようになるなら」と条件をつけた。

(3) 18～24節 割礼

- ① ハモルとシェケムはその条件をよしとし、町の門のところに行って、町の人々によびかけた。「彼らの群れや財産、それにすべての彼らの家畜も、私たちのものになるではないか。さあ、彼らに同意しよう。」
- ② こうして、その土地の男たちがみな割礼を受けた。

(4) 25～29節 報復

- ① 三日目、彼らの傷が痛んでいるとき、ヤコブの二人の息子、ディナの兄シメオンとレビが、それぞれ剣を取って難なくその町を襲い、すべての男たちを殺した。ハモルと息子シェケムを剣で殺し、シェケムの家からディナを救出した。
- ② シメオンとレビは、シェケムの町を略奪した。

(5) 30～31節 ヤコブの心配、シメオンとレビの応答

- ① 30節 ヤコブはシメオンとレビに言った。「あなたがたは私に困ったことをして、私をこの地の住民カナン人とペリジ人に憎まれるようにしてしまった。私は数では劣っている。彼らが一緒に集まって私を攻め、私を打つなら、私も家の者も根絶やしにされてしまうだろう。」
- ② 31節 彼らは言った、「私たちの妹が遊女のように扱われてもよいのですか。」

2. 神のお告げ、異教の神々を取り除く、神の守りの中で旅立つ（創世記35章1～5節）

- (1) 1節 神はヤコブに仰せられた。「立って、ベテルに上り、そこに住みなさい。そしてそこに、あなたが兄エサウから逃れたとき、あなたに現われた神のために祭壇を築きなさい。」
- (2) 2～4節 それで、ヤコブは自分の家族と、自分と一緒にいるすべての者に言った。「あなたがたの中にある異国の神々を取り除き、身をきよめ、衣を着替えなさい。私たちは立って、ベテルに上って行こう。私はそこに、苦難の日に私に答え、私が歩んだ道でともにいてくださった神に、祭壇を築こう。」彼らは、手にしていたすべての異国の神々と、耳につけていた耳輪をヤコブに渡した。ヤコブはそれらを、シェケムの近くにある榎の木の下に埋めた。
- (3) 5節 彼らが旅立つと、神からの恐怖が周りの町々に下ったので、だれもヤコブの息子たちの後を追わなかった。

3. ベテルでの神の現れ（創世記35章6～15）

- (1) 6～7節 ベテルに到着し、祭壇を築いた。

- (2) 8節 リベカの乳母デボラが死に、ベテルの下手にある榎の木の下に葬られた。・・・デボラはリベカがイサクに嫁いで来たときに一緒に来た(24:59)。そのデボラがヤコブの家族の中に入っていたということは、ヤコブがハランにいたときにリベカが死んで、デボラはハランに帰って来ていたということ。デボラが死んだとき、180歳くらいと推定される。
- (3) 9～15節 神の現われ アブラハム契約の継承の再確認

4. 12番目の息子ベニヤミンの誕生と妻ラケルの死(創35:16～20)
5. ミグドル・エデルでの出来事(創35:21～22a)

ルベンが父の側女ビルハのところに行って、彼女と寝た。イスラエルはこのことを聞いた。

- (1) ルベンの行動は、自分が一族のリーダーであることを主張したのかもしれない(参考 IIサム3:7、12:8、16:20～22)
- (2) イスラエルは、このことを聞いた。→ この時点では、それについて何も言わなかった。
6. ヤコブは、後に、臨終のときに、息子たちを呼び寄せて言った。「おまえたちに起こることを告げよう」(創49:1)と語り出し、まず長男ルベン、そして次男シメオンと三男レビと続き、全部で12人の息子たちについて預言した(創世記49章)
- (1) ルベンは長子の権利を失うことになる。「おまえはほかの者にまさることはない。」
- (2) シメオンとレビについては、彼らの子孫であるシメオン族とレビ族を「イスラエルの中に散らそう」
- ① 実際に、シメオン族は、自分の割り当て地を完全征服できず、他の部族の割り当て地の中に散っていった。
- ② レビ族は、神に仕える部族として召し出され、イスラエルの中に固有の割り当て地を与えられないことになった。レビ族の住まう町々は、他の部族の割り当て地の中に散在して指定された。

ヤコブは息子たちの暴走を止められない、弱い父親のように見えるが、そうではない。わざわいのときも、それが神の許しの中で起きていることを心得て、静かに神のなさることを待つ、という生き方に変えられていた。息子たちに対する臨終の言葉も、自分の判断ではなく、神から受けた預言として語った。